

震災を乗り越えよう！

各地の震災状況

東北地方太平洋沖地震による被害は、ルネサスの各拠点にも及んでいます。当日の帰宅途中に亡くなられた方がおられると伺いました。謹んでご冥福をお祈りいたします。那珂工場では、震災直後に従業員3名が負傷し、建屋にもかなりの被害があった模様です。武蔵でも1名が負傷された様子です。

3月15日(火)現在、東北および関東の7工場(那珂、鶴岡、高崎、甲府の4工場と、ルネサス北日本セミコンダクタの津軽と米沢、およびルネサスハイコンポーネンツ(青森県北津軽郡))で操業を停止していると報道されています。この内、日本海側の鶴岡のラインは、比較的影響が軽微だった模様で、生産再開に向けて立ち上げ作業が進んでいるとの事ですが、震源に最も近かった那珂は、復旧の目処が立たない様です。工場の早期再開を願っています。

私たちのステークホルダーが被った被害にも留意なくはいけません。私たちよりも上流にある、資材メーカー、薬品メーカー、治工具メーカー、そして各種の外注先は大丈夫なのでしょうか。下流にあるセットメーカーやエンドユーザーはどうでしょうか。内需が半分を占めるルネサスでは、エンドユーザーの工場自体が被害を受けていたり、部品が入らないために生産が出来ず、そのあおりを受けて需要が減ることも想定に入れないといけないのではないのでしょうか。

工場も事業所も販売拠点も、計画停電や交通機関の麻痺の影響を受けます。社員がまともに通えるのか、出社したとして仕事が可能か環境なのか、設備は使用できるのか、上流から下流への物流は問題なく機能するのか等についても、影響の大きさを懸念せざるを得ません。

以上から、ルネサスが受ける被害の大きさは、現時点で予想困難ですが、今後の社員の努力と協力により、きっと克服していけるものと信じています。

ルネサス懇

ルネサス関連労働者懇談会 2011年3月16日 号外

E-Mail : renesaskon@gmail.com

Web : http://www.renesaskon.net/

住所 : 東京都港区三田3-2-20 電機労働者懇談会気付

TEL : 03-3455-6006 FAX : 03-3451-3595

震災からの復興に向けて

M9.0の超巨大地震が勃発

3月11日(金)の14時45分に、ここ1世紀以上経験した事が無いほどの巨大地震が日本列島を襲いました。地震の規模を示すマグニチュードは9.0で、同時に発生した巨大津波が、東北地方の太平洋岸に壊滅的な被害をもたらしました。

ルネサスへの影響は？

今回の地震が、ルネサスにも多大な損失を与える事は、容易に想像できます。新聞報道によると、東北および関東にある7工場を停止したとの事ですが、特に最先端ラインのある鶴岡と那珂の停止によるインパクトが大きいです。装置の損傷はどの程度か、再立ち上げは何時なのか、廃棄ウェハーがどのくらい出るのか、製品のデリバリーへ与える影響はどの程度か等が懸念されます。

春闘の行方は？

3月16日(水)に会社回答が予定されていた春闘は、突然の大震災発生によって、見通しが立たなくなっている様です。3月15日には、交渉の延期につき、労組から通知がありました。

今回、労働組合は営業黒字達成見込みの業績をバックにして、賃金体系の維持と一時金4.5ヶ月分獲得の要求を掲げて交渉に入りました。特に一時金については、4.0ヶ月から少しでも上積みをと期待して、組合員は行方を見守って来ました。

大震災によって、ルネサスの業績が少なからぬ影響を被ることは予想に難くありません。しかし私たちにとって大切なのは、意気消沈して要求を何もかも諦めてしまうことではなく、譲れる点、譲れない線を明確にして、必要な労働条件の改善は主張し続けることではないかと思えます。

日本の復興はルネサスの半導体で！

今回の震災で、福島的第一原発および第二原発、それに宮城の女川（おながわ）原発でトラブルが相次いでいます。殊に福島的第一では、1号炉から3号炉まで、全てが冷却機能を喪失し、核燃料棒が過熱によって損傷し溶融して放射性物質が放出される「メルトダウン」の危機に迫られています。地震国である日本では、地震の揺れや津波によって原子力発電所の、特に冷却系統が損傷を受けて事故に至る可能性のあることが、従来から再三再四、指摘され続けて来ました。今となっては、高濃度の放射能に汚染された建屋内で、決死の作業を続ける作業員達の努力が成功することを、ただひたすら祈るしかありません。

原子力発電所の停止によって、東京電力は電力需要を賄いきれない事態に陥りました。巨大な発電所による一極集中的な発電システムの持つ脆さを、2007年の柏崎刈羽原発の事故以来、改めて更に強調した形で露呈したとも言えます。現在は、CO2排出対策として原発の有効性が語られる事もありますが、地震国日本に本当に相応しい発電方式なのかについて、ルネサスの大株主が原発事業をやっているかどうかを抜きに考えるべきでしょう。そもそもルネサスには、一極集中型の発電とは違った、太陽光や風力など自然エネルギーを有効活用した発電を支える、「スマートグリッド」に対応したMCUやパワー半導体があるのですから。

近年、会社のトップなどが、あまりにも「利益」「利益」と強調するため、社員はともすると、利益を上げることが仕事の価値であると思わされていないでしょうか。しかし、ルネサス社員の仕事の価値は、何よりも良質な半導体を世の中に送り出し、産業を支えることにあると言えるでしょう。そうする事で、きっと震災からの復興にも大きな役割を果たせるに違いありません。自信を持って、日々の仕事に向いたいものです。

震災直後はどうなっていたか

3月11日の14時45分に発生した地震で、玉川事業所では震度5強の揺れにみまわれました。川崎市内では、ここ数十年経験していない程の揺れだったと言います。ルネサスのある「くすのきエリア」の建物は、すべて4階建て以下の低層構造なのですが、4階フロアでさえ、激しい横揺れによって机の引き出しが飛び出す程でした。

地震によって地区全域が停電したため、玉川は非常灯以外の蛍光灯が消えて、パソコンもイントラネットも、電話もすべて使用できなくなりました。薄暗闇の中で、館内放送による具体的指示も、職場消防隊の誘導もなく、社員はどうしたら良いのか分からずに茫然としていました。15時半には、従業員の大半が建物の外に出て待機していました。16時半に帰宅の指示が出ましたが、指示系統が不十分なため、すでに半分かくらいの社員が個人の判断で退社していました。せめて事業所レベルの指示系統が崩壊してしまわないように、IP電話以外の回線を各職場1本くらいは用意すべきではないのかと思いました。

武蔵事業所一帯でも、同じく震度5強の揺れを観測しました。武蔵の設計者は、玉川事業所の停電によるサーバードアウンによって、ツールのライセンスが参照できなくなり、業務に支障を来た事態になりました。

しかし良かったこともあります。首都圏は鉄道網が軒並み停止したため、玉川では徒歩帰宅できない社員が、かなりの数に上りました。それらの社員は、ルネサスシティビル内で一夜を明かしました。当日は寒い夜でしたが、炊き出しのご飯と、NASAが開発した(?)保温性に優れるブランケットが全員に支給されて、何とか一晚を過ごすことが出来たようです。翌朝、回復した交通機関により、各自帰宅されたと聞きました。

編集後記 春闘回答を控えた先週末に突然襲った未曾有の震災を受け、今回ルネサス懇のピラ号外を、WEB掲載限定で発行することになりました。連日報道される被害状況の甚大さには、全く言葉を失います。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご自身やご家族や親戚縁者が被災された方々に、十分な支援の手が差し伸べられることを願います。

暴落する株価、高騰する原油価格など、不安要素が多々ありますが、こんな時こそしっかり前を見据えたいものです。